

2019年度 第1回 教育課程編成委員会（看護部会） 議事録

日 時：2019年7月25日（木） 14：55～16：45

場 所：岩国YMCA国際医療福祉専門学校 1階 会議室

出席者：岡崎 由起 岩国市健康福祉部健康推進課 主査  
村岡 恒信 岩国市地域福祉活動計画策定推進委員会委員長  
安永 彰子 岩国市医療センター医師会病院 看護部長  
江見 享子 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 校長  
福水 美恵 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 特別顧問兼校長補佐  
藤中 優子 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 保健看護学科 学科長  
矢野 結花 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 看護学科 学科長  
欠席者：沖島 均 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 事務長  
進 行：福水 美恵  
記 録：矢野 結花

- 配布資料
- 1) 2019年度学校運営目標
  - 2) 2018年度学科目標 評価（保健看護学科・看護学科）
  - 3) 2019年度学科目標（保健看護学科・看護学科）
  - 4) 2019年度学校年間行事
  - 5) 卒業生の状況 国家試験合格状況
  - 6) 入学生の背景
  - 7) 看護教育の現状に関する資料
  - 8) 第5次看護教育カリキュラムの改正の概要

1. 2019年度学校運営方針について

江見校長が資料をもとに説明。

2. 2019年度学科目標について

1) 保健看護学科の目標について、藤中学科長が資料をもとに説明。

質問・意見

- ・学生によっては、適性から次の進路を考えることが必要ではないか。
- ・学校としては、入学して頂いたからには、学生の希望をかなえる役割がある。  
はっきり適性がないと言うのは難しい。  
何年かかっても卒業していく学生は動機がしっかりしている。
- ・成績がぎりぎりでも優しい学生はよいが、キレやすい性格の場合、虐待の問題もある。  
退学者0が最優先ではない。

2) 看護学科の目標について、矢野学科長が資料をもとに説明。

質問・意見

- ・看護学科の場合、柳井市に主たる実習病院がある。そのため、実習施設ではない岩国市内の病院の見学をしている。  
岩国市医療センター医師会病院での施設見学では、卒業生が多く就職しておりその人たちと話ができる場を設けていただいているので、それが学生にとってよい。
- ・病院の奨学金返還免除期間が終わると、病院を変える人がかなりいる。
- ・最近では求人の流れが変わっており、大規模病院の求人が減少している。岩国市医療センター医師会病院が頼みの綱である。

3. 2019年度学校年間行事

配布資料を参照。

YYカフェは、認知症家族の会と共催で2年間継続している。

- ・参加者に認知症の方もいるのか。  
施設から来られているのは、認知症の方である。一般参加で常連のご夫婦もいる。  
毎回4学科の輪番で学科ごとに学生がテーマを決めて行っている。学生にとってもプラスになっている。
- ・ボランティアなのか。  
2018年度から少額ではあるが、岩国市からの補助金を頂いている。  
山口県の事業である介護・福祉理解促進セミナーを1年間で7回行っている。  
その他、学生にとって有意義で学生同志の交流が深まる行事として、保健看護学科では1年生対象に宿泊研修を行っている。

4. 2018年度国家試験結果

1) 保健看護学科の結果について藤中学科長が説明。

看護師国家試験の合格率は100%だが、2017年度2018年度保健師国家試験の合格率が低迷している。要因として、2つの国家試験を受ける多重課題に準備が不十分で、保健師の国家試験対策開始が遅れたので、今年は夏休みに補講を入れている。  
保健師と看護師の国家試験の問題が重なっているところもある。

外部委員の意見

この2年のことなので、合格率は目玉になるので何とか対策を講じて欲しい。

2) 看護学科の結果について矢野学科長が説明する。

2018年度の不合格者に試験後話を聞いた時、まじめに取り組んでいたのが大丈夫だろうと思っていたが、必修問題で基本的なことが覚えられていなかったことが分かった。基本的事項がどこまで理解できているか確認をしていく必要がある。

5. 2019年度入学生について

1) 保健看護学科 入学生について藤中学科長が説明。

2) 看護学科 入学生について矢野学科長が説明。

看護学科は定員の半分も満たせていない。柳井学園と柳井准看護学院と本校教員同志の情報交換会を行っており、6名と7名の入学があった。准看護師養成校も募集が困難で、厳しい状況である。

外部委員の意見

- ・看護学科については将来的には、難しいのではないか。

## 6. 看護教育の現状

資料をもとに、福水特別顧問が説明する。

2022年度4月からカリキュラム改正が行われ、現在その内容について検討中である。保健師教育では実習時間が増えそうである。これは、岩国市保健センターのバックアップがないとできないことである。ご協力をいただきたい。

外部委員からの意見

- ・認定看護師やナースプラクティショナーなどをめざしたいが、看護師の知力やコミュニケーション能力に問題がある。
- ・医師会病院ではナース体験を1日4名ずつ10日間実施予定。中・高校生への働きかけを現場からもしなくてはと思い行っている。保健師、看護師になるにはどうするか、県看護協会からの資料を使って説明している。若い人たちを岩国市集め、とどまらせることが必要。医療に関心を持つ若い人を医療の現場につかんでおこうと考え、忙しい中一日看護体験を受け入れている。
- ・職員がはたらきやすい環境作りとして、医師会病院では病児保育を1日2000円で開始した。
- ・若い人が定着する施策は実施しているが、病院では産休、育休者が多く、その対応も大変である。

## 7. 第5次看護教育カリキュラムの改正の概要

江見校長が、資料をもとに説明。

## 2019年度 第2回 教育課程編成委員会（看護系学科）議事録

日時：2020年2月28日（金）15:00～16:15

場所：岩国YMCA国際医療福祉専門学校会議室

出席者：岡崎 由起 岩国市健康福祉部健康推進課 主査

村上 恒信 岩国市地域福祉活動計画策定推進委員会委員長

江見 享子 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 校長

福水 美恵 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 特別顧問兼校長補佐

藤中 優子 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 保健看護学科 学科長

矢野 結花 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 看護学科 学科長

矢野 正博 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 事務長補佐

欠席者：安永 彰子 岩国市医療センター医師会病院 看護部長

沖島 均 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 事務長

進行：福水 美恵

書記：矢野 結花

- 配布資料
- 1) 看護師3年課程 教育内容の変遷
  - 2) 看護基礎教育検討会報告書の概要
  - 3) 週刊保健衛生ニュース 保健師助産師看護師学校要請書指定規則
  - 4) 表1 看護師教育内容見直しポイント
  - 5) 改正カリキュラム適用のイメージ（案）
  - 6) カリキュラム改正のポイントとその対応 出典 医学会新聞 2019.1125

### 1. 報告事項

#### 1) 看護教育の動向

配布資料1) をもとに、福水が説明した。

説明内容：看護師養成所を卒業する学生数は、大学卒と同数ぐらいになっている。

准看護師養成数と学生数は減少している。

今後は、電子媒体（ICT、インターネット、eラーニング）の活用  
教え込む授業から、学生が考える授業が求められるようになった。

行った授業の評価をどう生かすかも課題である。

物事を深く考えない学生が増えている。

上記の傾向を踏まえ学生をどう導くか。

意見：先生の言うことだけを実行する、自分で考えることをしない、勉強が出来ても生活体験が少ない。等の傾向がありこれからの教育は大変

- 2) 学生の現状、国家試験の受験状況について、各学科長より報告した。  
病院で働くためには、看護師資格が必要で看護師資格合格を優先している。  
保健師については就職先があまりない。

意見（保健師より）

- ・保健師の募集は、岩国市3名、県10名あり、100%充足していない。  
看護大学の実習も引き受けているが、実習生に聞くと就職先はほぼ病院と言っている。  
社会人入学の学生が保健師を希望していたが年齢的に難しかった。
- ・保健看護学科の学生数はどのくらいか  
入所定員からいうと44名が最大である。一般入試の受験生は他校と併願が多い。

## 2. 審議事項

### 1) 看護カリキュラム改正に向けての取り組み

配布資料2)～6)をもとに、福水が説明した。

追加説明

- ・実習をとりまく状況がかわっている。小児・母性実習施設が少ない、  
病院では在院日数が短縮しており、実習期間中1入の受け持ち患者を最後まで受け持つことが難しい。
- ・学校の特色をどのように出し、募集や教育につなげてゆくかが課題
- ・在宅看護学実習で、訪問看護ステーションでは1つのステーションで1日1~2名の学生しか受け入れてもらえず、訪問看護ステーションの確保が難しい。

質問・意見

- ・新人保健師に必要な能力は何か  
コミュニケーション能力と、判断力  
保健師希望者が4年生になって減少している。
- ・保健師資格取得後、臨床経験をし、その後保健センター等へ就職するのがよいか。  
どちらでもよい、
- ・危機管理時、地域を知っている保健師の方が活動しやすい。
- ・新人保健師には指導者をつけているが、経験を積み重ねないと保健師としての自立は難しい。  
先ず現場に同行し、次は1人で訪問に行く、報告、自分のことばでいわせる段階を踏んでいる。
- ・保健師としての採用連根は年齢は何歳くらいまでか。

30歳位

・岩国市は最近毎年 3 名ずつぐらい募集をしている。就職してくれると実習指導にも力が入る。

## 2019年度 第1回 医療秘書学科 教育課程編成委員会 議事録

日 時： 2019年7月11日（木） 15:00～16:45  
場 所： 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 1階 会議室  
出席者： 山崎 幹 公益財団法人日本医療機能評価機構 調査員  
末田 幸一 医療法人社団 小林耳鼻咽喉科医院 事務長  
江見 享子 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 校長  
福水 美恵 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 特別顧問兼校長補佐  
田中 千代 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 医療秘書学科 学科長  
沖島 均 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 事務長  
進 行： 沖島 均  
記 録： 沖島 均

配布資料：2018年度運営目標及び評価、2019年度運営目標、2018年度医療秘書  
学科運営目標・評価、2019年度医療秘書学科運営目標、試験・資格取得状況、  
医療秘書学科カリキュラム、  
医療事務職の初任給・各種手当の状況

### 報告・審議事項

#### 1) 2018年度運営方針及び評価、2019年度学校運営方針について

- ・江見校長より説明があった。詳細については別紙資料参照のこと。説明後、委員から以下の意見・質問が出た。
- ・年度目標は立てるがその目標が達成できたかどうかを図るのは難しい。それぞれの分析が大切である。  
前年度と同じ方針が掲げられないよう努力が必要である。  
→ 本校として毎年7月に概況書を作成し細かなデータ分析を継続している。
- ・年度目標等は校長が決められているのか、教職員みんなで相談して決められているのか。また、目標の数値化が大切であり学科ごとの目標が必要ではないか。  
→ 年度目標については学校全体で決められている。主に運営会議、学科別の会議、各種委員会等で検討し学科や委員会それぞれの目標を決めている。

#### 2) 2018年度の学科目標及び評価、2019年度学科目標について

- ・田中学科長より説明があった。詳細については別紙資料参照のこと。説明後、委員から以下の意見・質問が出た。
- ・求人情報の新着を掲示するとあるが、これは学校求人か。それともハローワーク等の求人か。

- 学校に届いた求人を掲示板に掲示している。ここ数年、求人数は減っておらず安定している。やはり課題は入学生の確保になる。
- ・医療秘書学科の損益分岐点は何名くらいか。
  - 定員40名に対して50%の20名である。
- ・以前取り組んでいた「医療秘書学科だより」は発行しているのか。定期的な情報発信が必要ではないか。
  - 今年度は発行できていない。早急にとりかかりたい。
- ・先ほど学科長から今年は学生確保に向けて手応えがあると報告があったが、その理由は何か。
  - 昨年度の高校訪問での印象や本校の広報担当者からの報告からも手応えを感じている。実際に今年のオープンキャンパスの参加者も増えており、高校との良好な関係も築けている。

### 3) 2018年度卒業生の就職と資格取得状況

- ・田中学科長より説明があった。資格取得状況については別紙資料参照のこと。

2018年度の就職状況は卒業生11名全員が就職した。内訳は病院3、診療所4、薬局2、その他2である。地域別には岩国市内6、岩国市以外の山口県内3、広島県2だった。その他の2名については

1名が岩国市役所の契約職員、もう1名は一般企業に就職した。
- ・資格取得については卒業生全員が目標資格であるメディカルクラーク、ドクターズクラークを取得した。

その他の資格としては医事業務管理技能認定試験を9名受験し6名が合格。また診療情報管理技能認定試験を同じく9名が受験し5名が合格した。

### 4) 2019年度新カリキュラム及び実施状況

- ・田中学科長より説明があった。2018年度と2019年度のカリキュラム表については別紙資料参照のこと。2019年度から「社会理解」、「コミュニケーション技術Ⅰ」「コミュニケーション技術Ⅱ」を新たに開講した。「社会理解」の授業の一環として昨日広島平和記念資料館を訪問した。学生たちには事前学習を課し、明日は学習発表も予定している。
- ・委員からは発表の場があることが大切であり、研修等に参加しただけでは意味がないとの意見があった。また、「コミュニケーション技術」の授業が増えたことに対し、委員からはコミュニケーションは医療現場ではとても大切であり授業が増えたことは良いことだとの意見が出た。
- ・委員から選択科目の合計時間数が180時間から210時間に増えているが学生の取得時間数が変更になるのかと質問が出た。
  - 学生の取得時間数は変更なく昨年度同様90時間を選択する。

#### 5) 医療事務職の処遇改善と対策

- ・福水特別顧問から説明があった。詳細については別紙資料参照のこと。この資料は本校に届いた今年の3月以降の求人票の一部抜粋のデータである。説明後、委員からは以下の意見や感想が出た。
- ・給与の低い病院・診療所には就職させない。就職させてもいずれ離職につながる可能性が高い。
- ・ドクターズクランクで就職することが難しい現状もあり、今後は問診票が書けるMSWを育成したらどうか。
- ・医療現場ではコミュニケーション技術が高い人材が求められるが、そのことを資格で証明することは難しい。
- ・資格手当や皆勤手当などを支給している病院等が多いことに驚いた。当院でも今後検討が必要かも知れない。
- ・今回の資料で給与が高い病院・診療所は広島市内や下松市内などである。学生たちが就職する上で給与が魅力の一つとなる。毎年広島方面への病院等を希望する学生はいる。岩国市内の病院は数が少ない。

\*次回の委員会については、12月頃を予定している。改めて日程調整をさせていただく。

以 上

2019年度 第1回 介護福祉学科 教育課程編成委員会 議事録

日 時：2019年7月17日（水）15：00～16：35

場 所：岩国YMCA国際医療福祉専門学校 1階 会議室

出席者：山永 則宏 特別養護老人ホーム光葉苑 施設長  
江見 享子 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 校長  
福水 美恵 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 特別顧問兼校長補佐  
佐々木 洋子 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 介護福祉学科学科長  
沖島 均 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 事務長  
矢野 正博 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 事務長補佐  
欠席者：山本 眞弓 介護付有料老人ホームティエラ 介護主任相談員  
進 行：沖島 均  
記 録：矢野 正博

配布資料：1) 2018年度運営目標及び評価

2019年度運営目標

2) 2018岩国YMCA国際医療福祉専門学校介護福祉学科【運営目標と評価】

2019年度介護福祉学科運営目標

3) 2017年度生3月卒業生就職状況

4) 介護福祉学科の入学生の背景

5) 2019年度学校年間行事

2019年度福祉・介護への理解促進セミナー

## 1. 報告・審議事項

1) 2018年度学校運営方針の評価及び2019年度運営方針

江見校長より「2018年度運営目標及び評価」ならびに「2019年度運営目標」について別紙により報告した。

2) 2018年度介護福祉学科運営方針の評価及び2019年度運営方針

佐々木学科長より介護福祉学科の運営目標と評価について別紙により報告した。

2018年度は効果的な教育・社会人募集強化対策・留学生との交流会の実施・聴講生の受け入れ・地域との連携等について報告をした。

2019年度の運営目標は、卒業生の応援体制によるオープンキャンパス内容の工夫・学生確保対策、学生による教員及び非常勤講師の授業評価、地域貢献等について説明した。

3) 卒業生就職状況と国家試験結果について

佐々木学科長より2018年度3月卒業生の就職状況について報告した。

介護福祉学科卒業生のうち岩国市内への就職率は90.9%でその他が9.1%であった。実習先へ就職する学生が多い。

介護福祉士国家試験合格状況は、全国合格率73.7%に対して本校は学生全員受験して全員合格の100%であった。

#### 4) 2019年度入学生の状況

佐々木学科長より2019年度入学生の状況について報告した。入学者は年々減少傾向で今年の入学者は11名（うち職業委託訓練生5名）であった。職業委託訓練生も減少している。ベトナムからの留学生が1名入学した。

##### ○質問ならびに意見

- ・職業委託訓練生の動向について知りたい。

離職者が国の補助で授業料の免除を受けて入学する制度だが、この制度は国の予算の確定後の2月から告知・募集・入試をするため年間を通して募集や情報発信ができない。そのため非常に短い限られた期間内で行われるため周知徹底が難しい。また対象者自体が減少している。

#### 5) 2019年度学校年間行事予定について

- ・山口県福祉・介護理解促進セミナーの実施

福水特別顧問より学校年間行事と介護福祉学科行事について報告した。

2011年度より継続している福祉・介護理解促進セミナーを2019年度も7回実施する。今年のテーマは肩こり・腰痛運動・福祉住環境・高齢者の食事・介護者のストレス防止・認知症の音楽療法等である。

#### 6) 介護福祉士をより魅力あるものにするには

- ・高齢者は増えるが介護従事者は減少するという逆行状態である。
- ・若者が入職しないのが要因である。
- ・介護専門職の自己研鑽や研修制度によるスキルアップが弱い。
- ・介護職の人材確保が困難。人材紹介会社からの案内はよく届くが中間マージンがかかるので積極的には活用していない。
- ・岩国市からの要請で老健施設長が小中学生を対象とした職業体験プログラムに福祉職業紹介を積極的に受け入れている。

次回：11～12月頃を予定し日程調整の上、岩国YMCA国際医療福祉専門学校にて開催予定。

以上

## 2019年度 第2回 介護福祉学科 教育課程編成委員会 議事録

日 時：2020年3月2日（金） 15:00～15:40

場 所：岩国YMCA 国際医療福祉専門学校 1階会議室

出席者：山永 則宏（特別養護老人ホーム光葉苑 施設長）

山本 眞弓（有料老人ホームティエラ 介護主任）

江見 享子（学校長）

福水 美恵（学校長特別顧問）

矢野 正博（事務長代理）

佐々木 洋子（学科長）

### 1. 報告事項

#### 1) 学生の就職状況等

入学時11名 2名退学（家庭の事情・進路変更）9名が卒業

9名の内、特養3名・老健1名・特定施設4名・障害者施設1名

実習先に就職した

#### 2) 国家試験について

9名が受験した。自己採点での結果では、全員合格

#### 3) その他

新型コロナウイルスに対応し、学生の臨地実習については、急遽3月の居宅系介護実習を中止した。

3月中の実習指導者会議や他の会議も中止した。

⇒施設の方では、面会は中止している。業者訪問時は検温実施している。職員は毎日検温している。

37.5以上あれば仕事にでない等を実施している。看護職員が対応している。

⇒学校の対応は、卒業式の縮小来賓に在校生なしで式典を行う。卒業生を送る会やYYカフェ等を中止した。今後も対応が必要になる。

### 2. 審議事項

#### 1) 2021年度介護教育カリキュラム改正に向けて-----別紙資料あり

介護福祉士養成課程の教育内容の見直しについて、別紙資料をもとに説明した。

5項目の見直し視点を授業概要や介護実習に組み込むことと、コミュニケーション力をつけること、リーダーシップの育成が求められている。改正ではコミュニケーション技術の時間数が30時間増え60時間となる。全体を見ながら時間数の調整をしていく。

⇒施設の方から、利用者さんはもちろん、職員間のコミュニケーションも必要でしっかり実施してほしい。

## 2) 留学生のサポート等について

2020 年度の入学生は、現時点で高校生 11 名・留学生中国 2 名ベトナム 3 名・一般 1 名で、今後、職業委託訓練生と留学生が受験予定である。

次年度の入学生は大きく 3 つのグループ、新卒者・留学生・職業委託訓練生になるので、効果的なクラス運営について検討中である。

留学生に対しては別紙資料を基に説明しマニュアル作成やボランティアでの協力を考えている。

⇒臨地実習についてご協力をお願いしたい。